

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370650

研究課題名(和文) 外国語の音声教育において学習者の自律的学習を支援する指導法と教材の開発研究

研究課題名(英文) Developing an educational method and materials which can be used in the autonomous learning of pronunciation of a foreign language

研究代表者

中川 純子 (NAKAGAWA, Junko)

慶應義塾大学・総合政策学部・講師

研究者番号：80645961

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本語を母語とするドイツ語学習者、とりわけ初学者のための発音教授法および教材の開発を行った。他外国語の発音教育で用いられるサイレント・ウェイ等の指導法も参考にし、「認知学習法」の理念に基づいた、学習者の自律学習を促す教授法、すなわち学習者が自らの発音器官をコントロールし既知の音(母語の音)から未知の音を自覚的・体験的に習得することができるような学習のあり方を提示した。さらに、聞き手の理解を阻害する発音上の問題点こそが優先学習事項と結論づけ、一連の予備実験の結果から優先事項をリストアップした。最終的に本研究の成果を盛り込んだマルチメディア教材(本、CD、DVD、WEB)を完成させた。

研究成果の概要(英文)：The aim of my research was to develop a method and materials for teaching German pronunciation to Japanese learners of the language. Using the "Cognitive Learning" approach and others as my base, I want to promote a method that encourages learner's autonomy. I would like for learners to learn to control their own vocal chords and take the sounds they know in their native language and transform them into sounds in their new language. This is the practical method of acquiring linguistic ability that I explored in my studies. I determined that addressing the issue of pronunciation errors was one of the first steps to making a speaker better understood. After conducting a series of experiments, I made a list of the most important factors in acquiring proper pronunciation. I concluded my research by turning what I had learned into a variety of multimedia learning materials.

研究分野：外国語教授法

キーワード：教育工学 教材 教育メディア一般 外国語教育 ドイツ語

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日のドイツ語教育においてドイツ語音声や発音が詳しく扱われることは極めて少ない。大学生向けのドイツ語教材では、多くの場合発音と綴りとの関係が冒頭の数ページ程度に挙げられているのみであり、学習者は現場の教師の発音とCDを聴いて真似をするしか方法はないのが実状である。この方法は若年の学習者には効果がある場合もあるが、成人の学習者や外国語の学習経験の乏しい者には困難と苦痛をもたらすこともある。また機械的な模倣と反復を主とするその練習法では、未知の語にどのように対処するかなど、応用力を養うことが難しいとされる。

(2) 一方、ドイツ語以外の外国語教育においては教授法の開発が進んでいる。Gattegno, C.によるサイレント・ウェイ、日本人向けに「フォニックス」(発音とつづりの関係のルール)学習法を取り入れた松香洋子、発音の学習に視覚・聴覚などを活用した Guberina, P.のヴェルポトナー法など、聴覚だけに頼らない発音教育や、発音の習得を学習の基盤とする言語教育の様々な試みがある。また、近年自分の学習を客観的にチェックする能力を育成する「認知学習法」の考え方が外国語学習の教授法として次第に広まっている。

(3) これら一連の先行研究に学び、研究代表者は連携研究者と共に認知学習法に基づく音声教材およびその教授法(指導法)の開発を進めてきた。この指導法ではメタ認知能力の育成という観点を取り入れ、モデル音に頼らず、自ら正しい音を発見することを試みている。さらに音声教材としてブログ形式で音声の提供を行うデモ版を作成し、授業とも連動させた指導も行った。

2. 研究の目的

本研究においては、日本語を母語とするドイツ語の、とりわけ入門レベルの学習者が、どのような練習を行い、どのような指導を受けることによって、効果的にドイツ語の音声の

習得ができるかを明らかにすることを目的とした。言語の音声的特徴は単音レベルからテキストレベルまで様々な段階で現れる。発話はその言語らしく聞こえるのは単音レベルより文のイントネーションやリズムの問題だとも言われる一方で、イントネーションがその言語らしいかどうかと、聞き手の理解を阻害する発音上の問題点の多寡は必ずしも比例している訳ではない。本研究では聞き手の理解にとって支障となる発音上の問題を明らかにし、その問題の対処に最も効果的な指導の方法論を導きだすことを目指した。研究課題は具体的には次のようなものであった。

- (1) 日本語母語話者にとって習得が容易/困難なドイツ語の音声特徴を選別。
- (2) 母語にはない未知の音を出すための方法の検討と提案。
- (3) 練習素材(ドリル素材、イラスト、音源)の質と量について検討し、教材として具体化。従来の指導法の長所短所を検証しつつ、「認知学習法」の理念に基づいた、学習者の自律学習を促す教授法の開発。

3. 研究の方法

(1) 2.-(1)については主として以下の方法によって進めた：

複数のドイツ語学習者の発音を録音し、母語話者に聞かせ、理解を妨げられる音を選別する。ドイツ語教員及び、ドイツ語学習者に発音についてのアンケートを実施し、発音しにくい音、並びに発音学習の問題点を調査する。音声学の知見に学び、音声学的な観点から日本語母語話者に問題となりやすい音を理論的側面から明らかにする。

(2) 2.-(2)についてはヴェルポトナー、サイレントウェイなどの他言語の教授法および、ドイツ語の言語聴覚療法の方法論から学び、作成したサンプルを教室で実験的に使用し、そのフィードバックから教材を修正することを繰り返した。

(3) 2.-(3)については紙媒体の教材のほか、CD及びDVD教材との連携もふくめ総合教材としての設計を行った。教材の録音はドイツで行い、その際にドイツの言語聴覚士やスピーチトレーニングの専門家にアドバイスを求めた。

4. 研究成果

(1) 2.-(1) に関しては、聞き手の理解に妨げになる発音上の問題点を導き出し、学習すべき優先順位の高い音声項目の暫定的なリストを作成した。

(2) 方法論の基本理念は自律学習であり、学習者に日本語で出している音を自覚させ、自分の発音をモニターして訂正する能力を引き出すことである。発音学習にモデル音のリピートではなく自己発見型の方法論を導入した。

(3) 紙媒体の教材を中心に、DVD、CDの教材を連携させた、自律学習および教室利用が可能な素材を提供した。教材では、単音、文レベル、テキストレベルに分け、それぞれの表現単位に特徴的な発音上の問題点を明らかにし、学習の方法と素材を提供した。なおWebは現在まだ作成途中である。本研究に残された問題点、研究の過程で新たに出てきた問いには現在、連携研究者とともに引き続き取り組んでいる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

小笠原藤子、中川純子、ドイツ語の発音と語彙 - 協働学習 ~ アクティビティを通して学ぶ実験授業 ~、慶應義塾外国語教育研究、査読有、11号、2014、47-70

Junko Nakagawa、Mutsumi Tachikawa、Tachikawa、Ausspracheschulung für japanische Deutschlernende.

Eine soziophonetische Untersuchung zur Festlegung eines Aussprache-Syllabus

für Deutsch als Fremdsprache、Peter Lang、2016、165-194

〔学会発表〕(計 5 件)

Junko Nakagawa、Mutsumi Tachikawa、Zur Bestimmung der phonischen Kernmerkmale für japanische DaF-Lernende、43.FaDaF-Jahrestagung、2016年3月10日、Essen(ドイツ)

Junko Nakagawa、Zur Bestimmung der phonetischen Kernmerkmale für japanische Deutschlernende. - Was spielt für die Verständlichkeit eine entscheidende Rolle? -、Internationale Vereinigung für Germanistik、2015年8月25日、上海(中国)

中川純子、立川睦美、日本語母語話者のドイツ語発音について - 発音が聞き手に与える影響についての一考察、日本音声学会第330回研究例会、2014年12月6日、日本女子大学・文京区・東京

Junko Nakagawa、Mutsumi Tachikawa、Die Interferenz des japanischen Lautsystems auf die deutsche Aussprache japanischer Sprecher - eine Untersuchung anhand der Transkription des von japanischen Muttersprachlern gesprochenen Deutsch -、GAL-Kongress、2014年9月17日、Marburg(ドイツ)

Junko Nakagawa、Mutsumi Tachikawa、Ausspracheschulung - ein Konzept zum autonomen Lernen、41.FaDaF-Jahrestagung 2014年3月21日、Münster(ドイツ)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中川 純子 (NAKAGAWA, Junko)
慶応義塾大学総合政策学部・非常勤講師
研究者番号：80645961

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

立川 睦美 (TACHIKAWA, Mutsumi)
東京医科歯科大学教養部・非常勤講師
研究者番号：80646985